

# 人物語り

ひとものごと

## 山武市在任1年が過ぎて

山武市副市長 おおつぎ だいすけ 大槻 大輔氏

今回は、山武市役所に勤務する大槻大輔副市長を紹介します。山武市誕生後初の副市長。国からの出向者としても初めてです。

昨年度、総務省の「がんばる地方応援プログラム」の一環として、全国の比較的小規模の10市町村に職員を派遣することとなり、その1人として選ばれました。

最初に山武市での仕事の印象を尋ねたところ、「霞が関の仕事は、国全体の制度の企画立案が中心ですが、得てして現場がわから



初体験の稲刈り

ないことがあります。山武市に来て、初めて、地方の疲弊や市町村合併の実状が肌で感じられました。」

また、「霞が関時代につきあう人は、中央官庁の公務員、大学の先生、大企業の関係者などでしたが、山武市に来てからは、仕事を通じて、休みの日にあちこち出歩いて、ごく普通の市民、民間の方と接する機会が増えました。自分がある意味で狭い世界にいたのがよくわかりました」と言います。

今後、副市長として取り組んでいきたいことについては、「合併して3年が経過しました。もう、合併したばかりとは言えません。旧町村の良さを受け継ぎながら、山武市らしさを創造・発信していく時期に来ています。そのために



### PROFILE

1969年京都市生まれ。1993年東京大学文学部社会心理学専攻卒業、総務庁（現総務省）入庁。在ベルギー大使館一等書記官、総務省行政評価局総務課課長補佐を経て、2008年7月より現職。

は、市役所の職員の意識改革がまず必要です。先日、職員研修で穂坂邦夫さん（前埼玉県志木市長）のお話をお聞きしましたが、現代の公務員には、市民の考えや要望を集めてくる「営業マン」と市民の声をどう政策に活かすかを考える「企画マン」の両方の資質が求められるとのことでした。これからの公務員は毎年決まった仕事をしているだけではいけません。積極的に考え、行動していく組織に変えていきたいと思っています。」

最後に山武市の魅力について

お聞きしたところ、「山武市には隠れた魅力がたくさんあります。上手くPRしていく必要があります。この春に「ぐるっと山武50kmウォーク」に参加したときのことです。歩くことによつて、車で移動してはわからない山武市の良さをたくさん発見できました。作田川の気持ちのよい散歩道、あちこちの菜の花畑、見事な中津田の桜。地元の人しか知らない山武市の見どころ（ビューポイント）をマップにできたらと思っています。」